

平成27年度 学校関係者評価委員会資料

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

平成28年9月7日（水）14時00分～15時00分

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 出席者

| | 選任区分 | 人数 | 役職名 |
|-------|-------|----|------------|
| 外部関係者 | 企業関係者 | 1名 | 保育園園長 |
| 外部関係者 | 地域住民 | 1名 | 学校指定女子寮管理者 |
| 学校側 | 学校教職員 | 2名 | 部長、部長代理 |

4. 学校関係者評価委員会 次第

- ① 開会
- ② 部長挨拶
- ③ 平成27年度における自己評価の報告
- ④ 討議・意見交換
- ⑤ 閉会

5. 討議・意見交換

- ①自己点検・評価報告及び討議・意見交換

(1) 教育理念・目標

| |
|--|
| (1) ①理念・目的・育成人材像は定められているか |
| 学園理念である「学生第一主義」を念頭に置き、目的を「教育基本法及び学校教育法の精神に則り、保育業界に携わる有能な人材を育成するとともに、人格教養を身につけた社会人を育成することによって、保育業界の発展に寄与することを目的とする」としており、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。 |
| (1) ②学校における職業教育の特色は何か |
| 現場に即応できる人材の育成を目標とし、知識面の習得だけでなく、実技面を重視したカリキュラムを組んでいる。 |
| (1) ③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか |
| ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。 |

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

・前年度から特に変更もなく、意見はありませんでした

(2) 学校運営

(2) -①目的等に沿った運営方針が策定されているか

設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は毎年4月に実施される、学園全体会議にて発表し、周知徹底されている。

(2) -②運営方針に沿った事業計画が策定されているか

全体会議にて示された重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の重点計画会議にて重点課題項目毎に達成状況の報告及び未達成項目についての具体的取り組みの報告を行っている。

(2) -③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか

就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。毎週行われる教務会議及び毎月行われる重点計画会議にて全職員が情報を共有し、決定事項については原則、会議にて決定する。

○課題

- ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特にありませんでした。

(3) 教育活動

(3) -①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。

(3) -②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか

専修学校設置基準に定められた年間800時間以上、課程の修了に必要な総時間数1,700時間以上を確保しており、学則に明記している。

(3) -③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。

(3) -④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、前後期に教職員による授業参観を実施し、教授方法の見直しを図っている。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。

(3) -⑤授業評価の実施・評価体制はあるか

学生が科目単位で授業を評価する授業満足度アンケート（5点満点）を年2回実施し、教員の教授レベルの確認と評価を行なっている。平成27年度の結果は、専任及び非常勤教員の平均値は4.75、専任教員に限定すると4.88と非常に高い結果となった。

○課題

- ・学習サポート校である豊岡短期大学の学習方法が大幅に変更になった。レポート及び試験について講義する教員と採点する教員が異なる科目もある。以前と比べ単位取得のハードルが上がっている。
- ・保育実習、教育実習で不合格や中断となる学生への対応と、そうならないための指導。

- 今後の改善方策
 - ・全道各地様々な高校から入学しており、学生の理解力には差がある。レポートや試験が一回で合格できない学生への対応は、以前より手厚く行う必要がある。
 - ・日常的に学習する習慣があまりない学生に対して、計画的に学習に取り組む指導を行う必要がある。
 - ・再実習を実施する際に、課題を克服できるよう指導を行うが、受入れ先にも事情を説明しある程度理解をいただいた上で実習に臨む。
 - ・実際に実習生を受け入れていただいている教育課程編成委員の皆様へ、最低限実習生に求めるもの、これだけは守ってもらいたい等の要望を確認させていただき、実習事前指導へ反映させたい。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・学力の低下については、報道などで耳にする機会が多い。先生方に於いては大変かと思うが大学や短大などにはない手厚いサポートを行ってほしい。

(4) 学修成果

| |
|--|
| (4) - ①就職率の向上が図られているか |
| 就職率を①専門職決定率（学んだ分野への内定者数）②全体決定率（就職希望者に対する就職率）③対象外率（就職を希望しない人数）に分類し、それぞれに目標を設定しながら学生の就職活動を支援している。平成27年度の結果は、卒業生163名、就職希望者162名、就職決定者159名、専門職決定者154名で、①専門職決定率目標98.0%に対し95.1%(就職決定者159名中専門職154名決定)、②全体決定率目標98.8%に対し98.1%(就職希望者162名中159名決定)、③対象外率目標2%（3名以内）に対し0.6%（1名）就職対象外のみ目標達成であるが、それ以外は目標未達となった。 |
| (4) - ②資格取得率の向上が図られているか |
| 資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。平成27年度の資格取得率は、こども学科98.8%（昨年100%）こども未来学科99.4%（昨年97.4%）となっており、全体でみると平成26年度に比べ向上した。 |
| (4) - ③退学率の低減が図られているか |
| 前年度の実績を基に、毎年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。平成27年度は14名の目標でスタートしたが、結果20名と目標を達成することができなかった。進路変更、経済的理由、病気等による理由は例年と同様だが、病気による退学がやや多かった。資格取得の意欲や学校継続の意欲を失い退学に至るケースも増えてきており、担任による個別面談、毎週の職員会議での情報共有などの取り組みは行ってきたが結果に結びつけることは難しかった。 |

- 課題
 - ・1年次の退学が圧倒的に多く、意欲を失い退学するケースが増えている。
 - ・平成27年度は、予想外に最終学年で4名休・退学者で出てしまった。
 - ・心に病を抱えている学生も増えてきており、対応が難しくなっている。
- 今後の改善方策
 - ・資格取得や専門職に対する意欲がなくなり退学に至るケースを防止することを第一に取り組むこととする。1年生は例年通り個人面談を実施し担任との信頼関係を構築するとともに、定期的にアンケートなどで悩みや相談したいことなどを確認し、早期に対応することとする。2、3年生に於いても担任との信頼関係を構築することが大切であるため、毎週のホームルーム以外にできるだけ教室に赴き学生の様子を確認するとともに、最低週に1度は担当クラスの学生と関わりも持つよう努める。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・就職を希望しなかったり、専門職に就かない選択をする学生がいるということは残念なことである。是非一人でも多くの学生を保育現場に送り出してもらいたい。
 - ・女子寮に入寮している学生で対人関係をうまく構築できない学生もいる。そういった学生が増えてきているように感じる。

(5) 学生支援

(5) -①進路・就職に関する支援体制は整備されているか

クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。

(5) -②学生相談に関する体制は整備されているか

クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。これ以外にも、学校内にカウンセリングルームを開設し、年11回開催している。

(5) -③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

学校独自の奨学生制度（入学時、進級時）や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。

○課題

- ・最近では心の病を抱えた学生が増えてきている。素人判断できないケースもあり、対応に苦慮している。

○今後の改善方策

- ・保護者や高校の先生にも高校時の様子などを確認しながら対応する。

○各評価委員からの意見・指導

- ・先生が学生のことをしっかり把握して対応している。大変手間がかかると思うが、今後もきめ細かいサポートをしていただきたい。

(6) 教育環境

(6) -①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。

(6) -②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか

学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。

(6) -③防災に対する体制は整備されているか

火災防火の為に組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・実習教室等の教育環境の整備。（常に最良の状態に保つ）

○今後の改善方策

- ・実習教室の機材・設備等は、必要に応じ補充や交換・調整を行っており、現在不都合は生じていないが、今後とも最新の技術習得のため、常に良い教育環境を整えて行く。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特に意見はありませんでした。

(7) 学生の受入れ募集

(7) -①学生募集活動は適正に行なわれているか

北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。

(7) -②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。

(7) -③学納金は妥当なものとなっているか

毎年、学科単位で経費をチェックし学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・平成28年度入学生については、提携先の短期大学の募集定員減に伴い募集途中で定員の変更やコースの追加を行ったため、定員を確保することができなかった。18歳人口の減少、保育分野離れ、高校の進路指導方針が大学進学を強く勧めるようになってきている等の理由から、今後も厳しい状況は続くと思われる。

○今後の改善方策

- ・保育士不足による求人増、保育士の処遇改善、仕事のやりがいなどを高校生へ伝えるとともに、高校教諭や保護者の理解も得られるようにする。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育士の処遇改善は、ここ数年少しずつ行われている。国の対策の重点項目にもなっているので今後も期待できる。賃金だけでなく、勤務体制について見直しをしている園も多く、働きやすい環境の整備も順次整っていくと思われる。
- ・保育士不足は深刻な問題であり、養成校は一人でも多くの学生を確保し、保育現場へ優秀な人材を供給してもらいたい。

(8) 財務

(8) -①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

平成28年度入学生は、諸般の事情により募集定員を大きく下回る結果となっているが、経費の削減なども同時に行い、財務状況は危機的状況にはない。保育業界を志望する高校生は減少傾向にあるが、まだまだ根強い人気業種でもある。国の施策でも筆頭に挙げられている分野でもあり、今後も一定の入学生は確保できると思われるため、中長期的に安定していると考えられる。

(8) -②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。

(8) -③財務について会計監査が適正に行なわれているか

私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特に問題ありません。

(9) 法令等の遵守

(9) -①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

法令を遵守し、適切な運営を行っている。

(9) -②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか

個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。

(9) -③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

- 課題
 - ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特に問題ありません。

(10) 社会貢献・地域貢献

| |
|--|
| (10) -①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか |
| 地域の子育て支援の一環及び学生の学びの場として「保専ひろば」を定期的で開催している。 |
| (10) -②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか |
| 保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋している。 |
| (10) -③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか |
| 近大姫路大学通信教育一般生の試験会場、スクーリング会場として校舎を提供している。 |

- 課題
 - ・ボランティアの依頼は例年並みにいただいているが、ボランティアに参加する学生は若干減少傾向にある。
- 今後の改善方策
 - ・ボランティアから職種理解、社会貢献意識などが高まるため、掲示板への掲示だけでなく積極的に学生に働きかけ、一人でも多くの参加を促す。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・ボランティアの経験はとて有意味なものであり、是非多くの学生に参加してもらいたい。

以上